

4～6 歳児におけるナラティブの発達と言語知識との関係 —ナラティブ発達評価指標作成に向けての基礎研究—

○瀬戸淳子 (帝京平成大学)

秦野悦子 (白百合女子大学)

キーワード: ナラティブ, 発達評価指標, 幼児期

問 題

本報告はナラティブ発達評価指標作成に向けての一連の基礎研究の一部である。報告者らは幼児期後半から学齢期にかけて発達する談話能力の発達プロセス、評価の方法について検討するために、ナラティブに関連する課題を作成し、4 歳から 6 歳児を対象に調査を実施し、それぞれ課題ごとに分析を進めてきた (瀬戸・秦野 2014, 2015, 2016, 2017, 2018, 2019; 秦野・瀬戸 2014, 2015, 2016)。本報告では、作成した課題の中から 4 つのナラティブに関する課題と文の復唱課題を取りあげ、1) 発達の様相と発達指標間の関係を検討する、2) 4 課題の発達指標と語彙などの言語能力と関係を明らかにする、ことを目的とする。

方 法

調査参加児: 保護者の承諾が得られ調査を実施した幼稚園児 153 名を対象とした (4 歳前半 22 名, 4 歳後半 35 名, 5 歳前半 33 名, 5 歳後半 29 名, 6 歳前半 18 名, 6 歳後半 16 名)。**調査期間:** 2013 年, 2015 年, 2016 年。**手続き:** 調査は 2 日に分けて実施し, 2015, 2016 年調査 (70 名) では 1 日目に言語検査 (PVT-R 絵画語い発達検査, 言語調整機能テスト (天野 2006), KABC-II 語彙尺度課題) を, 2 日目にナラティブに関連する 7 種の課題を実施した。**分析対象の 4 つの課題内容:** ①「なにをしてあそんでいる」課題: 質問応答状況で幼稚園や家での遊びや楽しかったことについての経験を語ってもらう。②「どれがいい」課題: 出版社の許可を得て, 絵本 新版『ねえ どれがいい?』(ジョン・バーニンガム作 まつかわ まゆみ訳 評論社 2010) の 3 場面を課題とし, 絵の中から一つを選択した理由を説明してもらう。③「どんなじゅんぱん」課題は, 3 つの場面について, 場面の最初と最後を示した絵カードの中間部に入るでき事について語ってもらう。④「どんなおはなし」課題は, 出版社と著者の許可を得て作成した字のない紙芝居「クレヨンのはしご」(板橋敦子著 ひさかたチャイルド発行) とその話を CD で聞かせた後に, 視覚的手がかりが無い状態で紙芝居の内容を語ってもらう。また, 「まねしてみよう」課題は文の復唱力を把握するもので, 知能検査等を参考に語の一部を改変した 4～8 文節の 12 問を課題とし, 復唱してもらう。**分析資料:** すべての発話のトランスクリプトと言語検査結果を分析の対象とした。

結果と考察

1) ナラティブの発達の様相と発達指標間の関係

「なにをしてあそんでいる」課題では, 語られた日常経験の伝達における 1 ユニット内での自立語数, および情報伝達の要素数 (いつ, どこで, など), 「どれがいい」課題では, 当該肢の選択理由をどの程度明確に説明しているかを基準にした得点, 「どんなじゅんぱん」課題では, 日常的に順序性をもって繰り返される事象のうち, 子どもが語った事象数 (SCR 得点), 「どんなおはなし」課題では, 物語の筋立てに必要な基本述語文のうち, 子どもが語った述語文数 (SN 得点) の発達的变化を検討した。また, 文復唱課題については, 文節数と文全体を基準とした文復唱得点を検討した。

5 歳くらいまでは, 課題によって時期にずれを生じながら発達する傾向がみられたが, 5 歳後半から 6 歳代にかけては, ほとんどの課題の発達指標の得点は急上昇を示し, ナラティブ能力の発達が収束し高まっていく様子が窺われた。

また, ナラティブ課題間の関係について, 年齢を統制した偏相関係数をみると, 暦年齢の影響を取り除いても, 経験の説明得点と選択理由の説明得点には弱(自立語数 $r=.297$) から中 (情報伝達の要素数 $r=.432$) 程度の相関, SCR 得点と SN 得点の間には弱い相関 ($r=.250$) が示された。

2) ナラティブ課題の指標と言語知識との関係

言語検査を実施した 70 名を対象に, ナラティブの発達と, 言語知識および文の復唱課題との関係について, 年齢を統制した偏相関をみた。その結果, 暦年齢の影響を取り除いても, PVT-R の修正得点は SCR 得点との間に弱い相関 ($r=.298$), KABC-II の表現語彙粗点は, 経験の説明 (自立語数 $r=.258$, 情報伝達の要素数 $r=.320$) 得点と, 選択理由の説明得点との間に中程度の相関 ($r=.419$), KABC-II のなぞなぞ粗点は, 選択理由の説明得点との間に弱い相関 ($r=.327$), 文復唱 (文全体) 得点は, 経験の説明得点 ($r=.293$), SCR 得点 ($r=.351$), SN 得点 ($r=.320$) と弱い相関があった。

以上のように, ナラティブ課題から抽出した発達指標は, 既存の各種の言語発達検査や文の復唱課題が測っている語彙や統語能力, 言語的記憶などと弱い相関があることが窺われた。今後さらに対象児を増やして検討をしていきたい。

(本研究は平成 27～30 年度基盤研究 C (課題番号 15K04572) の助成を受けている)